

S S T L

NO. 87 25. 3. 14

職場参加ニュース

「もやもやの中に
ヒントを探る」



「職場参加の灯を受
け継いでゆくために」

共に働く街を創るつどい2024

「灯を受け継ぐ」とは何か



2024年12月8日(日)、25年目の「共に働く街を創るつどい」を開催しました。

第1部では、今年のテーマとして「職場参加の灯を受け継いでゆくために」の、その「灯を受け継ぐ」とは何かについて、まず大塚新代表理事から次のランナーと想定される就労継続B型事業所せんげん台「世一緒」の現事業との関連で報告を行いました。

野菜販売～自主生産を通じた地域交流、せんげん台すいごごカフェ、越谷市地域適応支援事業への積極的参加、県庁のかっぱ店番や地域の企業の除草、大学生の実習受け入れ等、オリジナルな事業内容に取り組んでいます。

いっぽうで、B型の根拠法である総合支援法の成果主義は、このように共に生きるための職場参加の事業をすすめる上で壁になる要素も多くありますが、「矛盾を感じながら進めて」ゆくと述べました。

さらに、職場参加とは異なりますが、協同労働や社会的協同組合等の共に働く活動をしている組織のことを学び、連携してゆく必要にもふれました。

そして、常勤職員を補充しなくてはならないと述べ、ここにいる皆さんのお知り合いを紹介してほしいし、せんげん台世一緒の見学やボランティア体験に来てほしいと会場の会員や参加者に呼びかけました。

「受け継いでゆく」人たちはいま



次に、「受け継いでゆく」場の人々の状況について、山崎施設管理者から、今日出席しているせんげん台「世一緒」利用者からの発言もまじえながら報告しました。

トップバッターは、ずっと働いてきて、脳梗塞で片まひになって間もないOさん。

次はワーカーズコレクティブの弁当屋さんで早朝の電話受付と配達同行をしているご存じの大野さん。

そして、ローソンで弁当を週2回4時間作っていて、他の時はせんげん台に来たり、好きな電気屋回りのSさん。

最後に、朝の2時間半、掃除の仕事をしたばかりで、後はせんげん台に来るOさん。まだ来て間もないNさん。

山崎さんは、せんげん台世一緒を、一緒に何かをやる場所、いやなことをいやと言えるところにしていき、外に世界を広げてゆける場所にしたいと述べました。

そして「もやもやワークショップ」へ

以上の第1部を受けて、「もやもやの中にヒントを探る」と題したワークショップに移りました。

NPO法人として、理事会、運営委員会と現場では、「灯を受け継ぐ」方向で具体的に動こうとされていますが、現場だけでは限界がある部分をどう考えたらいいでしょうか、現場には直接関わりのない会員や連携団体、関心ある個人も、それぞれの置かれた状況を振り返りつつ、一緒に考えられないでしょうか。

その際、「それどころじゃないよ、自分の事でいっぱい・・・」という状況も排除しないで・・・と。

NPO法人ならではのワークショップができたらいいなと。広がりや逆に微細なこだわりの要素も期待しつつ、ワークショップに移りました。

40人が4グループに分かれての「もやもやワークショップ」の始まりです。

少しだけご紹介します。

「かって夫婦で会社をやっていて、障害者雇用をしようとハローワークで募集まで行ったが、悩んで悩んでけっきょく採用できなかった経験。だからこそ、いま障害のある人たちがどうやって働いているのか、どんな苦労があるのか、教えていただきたい」

「もやもやの灯を消さないように。もやもやがわからないで終わったら、それで終わっちゃうから。」

「フルタイムしか知らない世の中にいたので、いろんな働き方からいろんな生き方、暮らし方、仕事、社会、いろんなやり方があるんだなって、新鮮。」



「やっぱり労働時間 2 時間っていい?」「体を動かすから気持ちいい。」

「社協のヘルパーは泊まりはやらない。株式会社は泊りをやるが、ヘルパーになっても障害者と会ったことがない人も多いし、介助の仕方はやっぱりこっちが教えなくちゃいけない。」

「職場参加をすすめる会という認識はなく、B 型のせんげん台世一緒としてケースワーカーに紹介されてきた。仕事をするのは楽しいが、自分から見てあれは自由人過ぎてまずいのではという人がいる。指摘したらまずいのかなと思って、余計な事は言わない様に気をつけている。」

「私が前に働いていた施設でもそういう人がいたが、彼女のここでの役割はうろうろすることなんだと利用者に話した。」

「なんであの人は許されていて、この人は許されていないのかというのが随所にあって、それが気になっている。」

「私はけっこうふだんの職場では先頭に走ってしまう感じで、それをスタッフからブレーキかけられている。」

「たそがれ世一緒の管理人をしているが、コロナの影響で、たそがれ世一緒も来る人が減って、ノンアルコールとさきいかくらいあった方がいいのかなとも思う。コロナが終わったが、何をやってらいいのか、元に戻ったらいいのか、騒がしいのがいいのか、逆に静かにやってらいいのか、答えはないがもやもやしている。」

「私の中では問題を整理した。本部事業をどう引き継ぐのか、ここで答えを出すべきでは。越谷の世一緒がなくなるのに、たそがれ世一緒はどうするの。本部がやって来た仕事発見ミッションとか、もう一回やってほしいとも思っている。そこはまたもやもやしている。」

「生の話を聞かせてもらって、もやもやが少しすっきりした。」

「職場参加とは何か。障害者がいるということだと思う。A型もB型も成果をあげないとつぶれちゃうと脅されてる。でもそういう競争に参加しちゃいけないと思う。このもやもやは晴れそうにない。」

「食堂のあるB型に行っている。でも障害のある人がメインでは料理できない。どうやったらスタッフと同じ立場になれるか悩み続けている。」

「私はいまA型に行っているが、B型の人と一緒に出来たらいいのかな。」

「障害の重い娘にとって働くということは難しい。でも社会に出て役割を果たしてほしいと思う。そこに割り切れない、もやもやを感じる。」

その他、2グループのまとめ役から



柴田さんの脳内に職場参加した。小さい頃から双子のお姉さんと比べられてきたこと。そして市場のお菓子屋さんで働いたこと。

あと、逆「職場参加」みたいの大事じゃないかと。障害者がいるところへ、地域の側から来てもらうことも大事なんじゃないかというのにも心に残った。

あと、Nさんが漢字や数字が好きだと言い、これからせんげん台でニュースみたいのを作ってみたいと。

谷崎さんはもっと現実的な話で、通所者の話をよく聞いて、課題に合わせた計画を立てていくのがうまくできなくてももやもやしている。でもうまくいかなくて一緒に悩んでいてくれる人の方がうれしい部分もあると。

ここのグループのメンバーは、べしみ、かがし座、世一緒の関係者がいる。コロナの影響で、人と人の関係が疎遠になってきて、その影響が、職場参加を考える上でも大事なんじゃないかと。

前回の総会ワークショップでは、危機という言葉を使って来たけど、今回は一言も出ていない。共に地域に出て働くことを積み重ねてきた、その延長で障害のある人とない人が混在している職場を大事にしなが、そこで人間関係はどうなんだと、どういう方向に行くのが基本なのかと、悩み、迷いながら進んでいくしかないのでは。

2024年度会費、寄付ご納入ありがとうございました。(五十音順、敬称略)

【正会員会費】会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、有竹和子、内野かず子、大坂富男、大田ちひろ、沖山稚子、大塚眞盛、尾谷英一、川口裕之、黄川田仁志、木下恭子、佐藤邦弥、清水泉、高瀬勇、竹内千春、竹迫和子、谷崎恵子、辻浩司、辻彩子、友堅由紀恵、中山佐和子、野村康晴、橋本克己、長谷川颯、幡本洋子、原和久、樋上秀、日吉孝子、平岩和好、正木敬徳、松田和子、松山美幸、水谷淳子、水谷浩志、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎泰子、山崎有子、山田裕子、吉田久美子、吉原広子

【賛助会員会費】岩崎廣司、上野豪志、及木聡、佐藤恵美子、島根淑江、並木理、原田真弓

【団体会員】NPO 法人精神障害者の自立生活をすすめる会、NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座、春日部市障害者生活支援センターえん、くらしセンターべしみ

【寄 付】植田恵子、大槻由佳、小野達雄、清水泉、田島玄太郎、田中利昌、野村康晴、長谷川颯、吉田久美子、吉原広子

職場・地域ひろがりつうしん

さようならお世話になりました



精神科医 瀬戸 睿
てくれます。確か
きれいな花だと思
ても、ほんやりと
か見えなくなっ
ま、ムリヨバエ

心の悩みエトセトラ
第70号

朝日新聞に入って来る東武朝日を見ていたら懐かしい笑顔が。暮れに亡くなられた南埼玉病院の瀬戸睿(さとし)先生でした。

・・・川も老化するのですかね。「あなたが老化しているのよ！」と看護婦さんたちは言ってくれます。「若者の心の悩みはわからなくなっている。「年寄りの心の悩み」はさらによくわからない。・・・

こんなことがサラッと書ける瀬戸先生。たくさんお世話になりました。

避難所一泊体験をふりかえりました



阪神大震災から30年の1月17日(土)生活クラブ生協越谷センターで、これまで越谷で3回行われた市民主催の避難所一泊体験をふりかえるつどいが開かれ、越谷の世一緒とせんげん台世一緒から11名が参加しました。

阪神大震災は、市民活動や障害当事者活動の役割が大切なことを共有する大きなきっかけとなりました。誰もが暮らしやすい街づくり実行委員会(樋上秀代表)が呼びかけて学校体育館を使用して行った避難所一泊体験は、その後各地で行われています。

県庁の店かっぱの名物店員



1月31日の、県庁内福祉の店アンテナショップかっぱのfacebookより、就労継続B型せんげん台世一緒の通所者。菅野秀義さんの評判。「本日のひでよしさん。500円で購入したスーツと頂き物の靴で正装。

(ひでよし流おしやれはシャツの下にジャージ着用らしいです) コメンテーター風だったので昨今の物価高騰についてコメントを求めたところ『買物しないからわからない』とのことでした。本日も平和です。』

うんとこしょ！今年も梅林公園へ



2月22日(土)今年も、生活クラブ越谷ブロック地域協議会が主催し、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会とNPO

法人共に生きる街づくりセンターかがし座の共催により行われました。

北越谷駅と大袋駅集合、または現地直行の3ルートに分かれ一緒に歩きました。今回はNPO法人合の方々や飛び入りも。「アブラハムの子」、特別バージョンの玉入れなどで体を動かしました。特に玉入れはアンコールが続き、4回もやりました！

そしてお昼を食べながら交流した後、それぞれの駅へ。別れを惜しむかのように風花が舞いました。

春日部市カヌー協会が発足5周年



当NPO法人の尾谷英一理事(株ニューオタニ社長)が会長を務める春日部市カヌー協会が、2月23日、発足5周年記念報告会を匠大塚春日部本店で開き、60人が集まりました。

同協会は大落古利根川などでカヌー体験教室や川のごみ拾いなどに取り組んでいます。

年度末の越谷水辺の市-新年度もよろしく



越谷市役所東側のウッドデッキで、第2(第3)火曜に開催してきた水辺の市もいつのまにか10

年を越えました。イベントの企画・運営に長けたリーダーが仕切るわけではなく、出店(展)者自らがたどどしく、時にごちゃごちゃと出会い、別れも重ね、この市をつないでできました。写真はタンク☆ポップを囲む集合写真。鳥ちゃんやプリンセスマミーもあわせ、モノとそして、技と関りを育んできた市。当会は裏方とせんげん台世一緒の野菜を中心に参加しています。2025年度もよろしくおつきあいを！

2024年度共に働く街を目指す自治体提言 春日部、草加、越谷の市長さんと懇談

2月7日(金) 春日部市 岩谷市長と懇談



春日部市を訪問。岩谷一弘市長を囲んで記念撮影をした後、大塚代表理事から市長に提言書を手渡ししました。懇談では、地域活動支援センター(地活)パタパタの県補助金打ち切り問題や、越谷市にならって地域適応支援事業の実施をしてほしいという希望などが出されました。藤崎さんは、入院時の重度訪問介護が認められず適切な支援を受けられなかったこと等を訴えました。今年も古沢市議に同席頂きました。

2月12日(金) 草加市 山川市長と懇談



草加市役所を訪問し、山川百合子市長に提言を手渡し、関市議同席のもと懇談を行いました。大塚代表理事は、特別支援学級の生徒が通常学級の行事に参加できる工夫の必要性を述べ、市長も教育委員会と協議する意向を示しました。また、めだか工房への県補助金打ち切り問題について、市から県への見直し要請をお願いしました。懇談後、市議の案内で展望ルームを訪れました。

2月19日(水) 越谷市 福田市長と懇談



越谷市役所を訪問し、福田晃市長に大塚代表理事から「共に働く街を目指す自治体提言2024」を手渡しし、部課長等のみなさんをまじえ、山田市議の進行により懇談を行いました。大田市議も同席いただきました。

1)「就学相談」等について、共に学ぶことを希望する親子を支えるための就学相談のありかたについては、今後なお話し合いが必要と感じました。

2)「地域適応支援事業」について、福祉施設等の障害者が施設職員等の支援を受けて市役所など地域の職場で働く体験をする同市の地域適応支援事業について、来庁者の目に触れない別室で実施した例があったが、次年度は職員と一緒に席で実施すると回答がありました。

3)市職員採用について、障害のある会計年度任用職員(非常勤)が22人雇用されていると報告がありました。ただ、人事課の下から彼らの派遣を受け入れる現場がまだ限られており、拡大が必要である実情が報告されました。会計年度任用職員は最長3年までの雇用であり、これまで正職員になって残ったのは2名だけ、他市の職員になった例が1名です。人事課の熱意がある一方で3年間の雇用終了後の民間就労の実態は把握されておらず、課題として指摘されました。

4)公契約条例に基づく受託現場での雇用等

現在、リサイクルプラザのペットボトル選別ラインで受託企業により障害者雇用が行われているが、他の受託現場でも取り組めないかとの問いかけに対し、契約課は他市で就労A型に再委託を行っている例を示しました。

ただ、職場参加をすすめる視点からは、こうした職場で地域適応支援事業を継続して行い、その中から重い障害者も含めた多様な働き方を組み合わせたモデル職場として育ててほしいと感じました。

共に働く街をめざす自治体提言2024

1) 就学相談は支援学級・学校への就学を考えている場合に必要であることを明示するなど、貴市として共に学び合いたい親子を支え、共に働く街への一歩を進めることが大切です。

共に学び合うことは職場参加を実現する大前提です。就学先の決定について「本人及び保護者の意向は可能な限り尊重される」とされています。しかし、就学先決定前に「対象となる子供が学校生活を送るうえで課題となりそうな内容」や「基礎的環境整備」、「合理的配慮を含む必要な支援の内容」等々の説明を行って、本人及び保護者の不安をかきたてることは、合理的とは言えません。合理的配慮は予め説明するものではなく、本人がまず就学して学校生活を体験して、そこで配慮が必要と感じた場合、学校に対して求めてゆき、建設的対話を行う中で具体化してゆくべきものです。

新座市では「就学相談の御案内」の中に「特別支援学級や特別支援学校への就学を考えている場合には、お申し込みが必要」と明示しています。同市の例等を参考に、共に学びたい、学ばせたい本人・保護者の意思尊重に努めることが大切です。

2) 就労の為の職場実習だけでなく全障害者施設、精神科院内デイケアからの職場体験を

この20年間障害福祉サービスが急拡大した半面で、障害のある人と見れば専門家しか付き合えないと思われ、本人も職員や支援者以外の人とのつきあいがなくなり、小さな密室が地域に張り巡らされた感じが強まっています。だからこそ、サービスの枠を超えた出会いが、地域にとっても必要です。

就労、雇用を前提とせず、市役所等や店、工場、農家で、障害者福祉施設、院内デイケアの利用者が職員等の支援を得て職場体験を行う事業を実施してください。先行する越谷市は近隣市へ、地域適応支援事業の実績を含め伝えることに努めて下さい。

3) 国連障害者権利委員会勧告に沿い、地域で共に働く諸事業の情報提供や連携の支援を

世界各国の障害当事者が委員の多数を占める国連・障害者権利委員会が、日本の障害者福祉サービスが社会から閉ざされた体系であること、他の人々と共に働くことを支援する仕組みに転換すべきと勧告しています。この日本でも、社会的協同組合(共同連)、労働者協同組合、ソーシャルファームなどの名によるさまざまな共に働く事業が生まれています。

当会のすすめてきた「職場参加」はそれらの事業と連帯し、労働・雇用と福祉・医療の狭間にある人々も含め、共に働く社会をめざしています。貴市として、それらの情報を把握し、市民への広報や事業立ち上げ、連携の支援を検討して下さい。

4) 貴市の零細企業や自営業等向けに、障害者雇用体験事業や納付金関係助成金の案内を

法定雇用率を柱とした日本の障害者雇用促進法は、近年雇用代行業者が全国各地で急成長したり、今年3月—7月にはA型事業所で働く障害者4279人が解雇される事態を招いたりしており、「ザル法」といわれてきた問題点をさらけ出しています。

地域の大多数の事業者は雇用義務のない小・零細企業で、そこに最も多くの障害者が雇用されている実態があります。貴市として、地域の小・零細企業に納付金関係助成金の案内や手続き支援、また県の障害者職場実習支援事業等の紹介を行うなどの支援が大切です。

5) 市役所及び市の公共事業で共に働く職場を拡大し、その経験を地域に役立てること

貴市は、地域最大の職場をもち、障害者活躍推進計画を進め、また事業主、障害者への援助や職業リハビリテーション、福祉施策を総合的に推進しておられます。

その重要な位置をさらに活かすため、市役所及び関連事業で共に働く職場を拡大し、そこでの好事例や課題を地域の事業者、障害者、関係者が共有し、地域で役立てられるように取り組むことを提言します。

6) 各世代の支援計画、都市計画に反映を、県・国の施策に反映されるよう取り組みを

上に述べたことについて、貴市の障害者計画、障害福祉計画はもちろんのこと、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、子ども子育て支援事業計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直しの際にも反映されるよう、あらためて提言します。

また、県および国の施策において、関連した取り組みがなされるよう、働きかけられることを提言します。

すいごご FLASH

●2024年10月16日大塚眞盛さん(当法人代表理事)



県立川口養護学校に就職したこと、東京都立八王子養護学校の研究授業に2回くらい行ったことは、私の生き方や原点になっている。

よいしょ農園をやる中では、自分達で管理し、自主的にやっていくようになればいいと思っている。今年職員が中心になる部分も多かったが、来年度は利用者がもっと考えをもって、中心になって畑作業をやってくれるようになるといいなと思う。それが、やりがいか生きがいになったり、地域の人との繋がりになることもあるんじゃないかなと思う。

●10月30日 樋上 秀さん(誰もがくらしやすいまちづくり実行委員会代表)



昔野島さんと横浜にコンサートを見に行った。当時エレベーターやエスカレーターはついていない駅がほとんど。コンサートが終わって、野島

さんが駅員を振り切り、周りの人に声をかけて担いでもらって帰った。それを見た若い駅員は、帽子を地面に叩きつけてばかやろうって叫んだ。野島さんにサービスしようと思ったのにできず、自分自身に腹を立ててすごい悔しがった。僕はそれを見てテレビのドラマを見ているような錯覚に。今は昔みたいに、大変な思いをしなくても済むようになった。

●11月6日 幸福春美さん(川口在住)



生まれつきの脳性まひで、少し言語障害もある。小中まで普通学校、高校は養護学校を卒業、一般就職した。2、3回転職し、障害のある夫と結婚。翌年息子を産み、助けて

もらいながら暮らした。でも、結婚4年目に夫が天国に旅立った。息子が高校生になってもう一度働きたいと就職活動をしたが、敗血症になり一時命も危なかった。回復後以前の生活ができないとなり、グループホームへ。そのグループホームで火事があり、入院。その後いろんなことを乗り越え、2年前から一

人暮らしができるまで回復し、今ではヘルパーを利用しながら昔みたいに着替えも家事も一人でできるようになった。

●11月20日 水谷淳子さん(医師)



過去10回にわたって語ってきた「コロナ……そしてワクチン」の話の振り返り。「医者になって55年余。この4年間は初めての経験が多かった。

私はあえて、感染防御態勢は取らず、ワクチン接種もしなかった」。新型コロナワクチンは『感染を防ぐことはできないが、重症化を防ぐ』と厚生労働省は言ってきた。実際の効果はどうだったか。コロナワクチンの副作用が史上最大の薬害と言われている状況について話した。

●11月27日 森住由香里さん(せんげん台世一緒利用者)



20年前養護学校高等部を卒業、わらじの会や自立生活協会、障害者市民ネットワークなどの活動に参加した後、一度活動から身を引いた。その後結婚や離婚、就職等経験した後に、せんげん台に通所。最近になって再び社団

の活動に参加し始めた。今は制度の利用者になって、途中での出会いとかがなくなってしまっている。以前は、職員と利用者が今ほど分けられてなく、立場の枠を超えて、いろいろなつきあいができた。

今の住みやすい生活は、先輩たちが創って来てくれたものだとは自分はわかるから、後輩たちもそう感じてほしいと思うし、後に続く人を増やしていきたいと思った。

●12月18日 西村正明さん(農政ジャーナリストの会会員)



「鈴木農園と鈴木照和さんの魅力」について。西村さんは夫妻で直売所に通ううちにだんだん興味をもった。それは障害者や引きこもりの人のオープンなたまり場にしていきたい、という鈴木さんの思いや農政ジャーナリストとしての評価があった。鈴木農園は、ほとんど一人で農地の荒廃を防ぎ、自給率向上にも一役買っていると考えている。

寸暇を惜しんで畑の中を駆け回り収穫している鈴木さんを手伝いながら、「大変ですね」と声を掛けたら、「泣きながらやっている」という本音が聞けた。

3月	越谷世一緒&関係団体等行事	せんげん台世一緒活動
1日 土		知的障害者の自立生活シンボ(ZOOM)
2日 日		
3日 月		野菜収穫?(岡村農園)
4日 火		ウッドデッキ(野菜販売)
5日 水	当番会議~すいごごカフェ(長岡さん)	所内作業
6日 木	たそがれ世一緒	おもしろ講義、革工芸
7日 金	Love Shirakobato プロジェクト	ポストティング、所内作業
8日 土	社福つぐみ共生会30周年記念集會	利用者ミーティング
9日 日		
10日 月		野菜収穫?(岡村農園)
11日 火	越谷水辺の市	ウッドデッキ(野菜販売)
12日 水	すいごごカフェ(横上さん)	所内作業
13日 木	たそがれ世一緒	おもしろ講義、革工芸
14日 金	Love Shirakobato プロジェクト	ポストティング、所内作業
15日 土	障害者制度改革埼玉セミナー	利用者ミーティング
16日 日		
17日 月		NPO法人事務局会議
18日 火		野菜収穫?(岡村農園)
19日 水	語る会~LunchCafe どっこいしょ~すいごごカフェ(前田さん)	ウッドデッキ(野菜販売)
20日 木		所内作業
21日 金	障害児を普通学校へ全国交流集會	おもしろ講義、革工芸
22日 土	Love Shirakobato プロジェクト	世一緒農園
23日 日	コマームナーサリー終了・進級式	ポストティング、所内作業
24日 月		利用者ミーティング
25日 火		
26日 水	せんげん台すいごごカフェへ	野菜収穫?(岡村農園)
27日 木	たそがれ世一緒	ウッドデッキ(野菜販売)
28日 金	Love Shirakobato プロジェクト	せんげん台すいごごカフェ(山崎誠司さん)
29日 土	知事公館で花見with かつぼフェスタ	おもしろ講義、革工芸
30日 日	共に学ぶ春の相談会	世一緒農園
31日 月		ポストティング、所内作業
4月	越谷世一緒&関係団体等行事	利用者ミーティング
1日 火		野菜収穫?(岡村農園)
2日 水	当番会議~すいごごカフェ(榎本さん)	ウッドデッキ(野菜販売)
3日 木	たそがれ世一緒	所内作業
4日 金	生活クラブ地域協議会	おもしろ講義、革工芸
5日 土		世一緒農園
6日 日		ポストティング、所内作業
7日 月		利用者ミーティング
8日 火	越谷水辺の市	
9日 水	すいごごカフェ(大坂さん)	野菜収穫?(岡村農園)
10日 木	たそがれ世一緒	ウッドデッキ(野菜販売)
11日 金	愛の絆基金、触診ニュー Love Shirakobato プロジェクト	所内作業
12日 土		おもしろ講義、革工芸
13日 日		世一緒農園
14日 月	すすめる会運営委員会	ポストティング、所内作業
15日 火		利用者ミーティング
16日 水	語る会~すいごごカフェ(大塚りなさん)	
17日 木		野菜収穫?(岡村農園)
18日 金		ウッドデッキ(野菜販売)
19日 土		所内作業
20日 日		
21日 月		NPO法人事務局会議
22日 火		野菜収穫?(岡村農園)
23日 水	せんげん台すいごごカフェへ	ウッドデッキ(野菜販売)
24日 木	たそがれ世一緒	せんげん台すいごごカフェ(大野言弥さん)
25日 金	Love Shirakobato プロジェクト	おもしろ講義、革工芸
26日 土		世一緒農園
27日 日	春日部蕨まつり	ポストティング、所内作業
28日 月		利用者ミーティング
29日 火	めだか総会	
30日 水	すいごごカフェ	野菜収穫?(岡村農園)
		ウッドデッキ(野菜販売)
		所内作業

職場参加つれづれ草

いま思っていることを

すどう まさはる

いま思っていることをおもうように、できたことになるよていである。いつもどおりの市民のしごとをこのまれのしごとを、これまでとおなじようにいつまでもそれぞれのしごとによっていつまでもそれぞれのしごとのも仕事をいつものしごとによっていくらかのこれからのしごとをあらゆるこれまでのやりがいによって始発をのりついでいくつものしごとをのりすごして、それからの仕事もやりすごせばいいと思いますようにみせる。

もういちどしごとを見せるように、このままの仕事をやるせなく、いくつものしごとをそれまでといくつも仕事をなんでも仕事をやることについていくつもの仕事を始めるようにする、しごとをいつまでもやるようにすることによる、いつまでもしごとをする、そのままになる。

「この」の楽しみ

明日の開幕戦が楽しみ
千秋楽が楽しみ

二〇二五年三月十四日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日)

一九九四年八月二十四日第三種郵便承認

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851 川口市芝新町十五一九アステール藤野1F

うみがきれいでした

かんのひでよし

ほくわ、こないだ、とうきよたわにいてきました。おもしろかったです。それで、さくらおみてきました。こやさんとまた。テレサでよこはまいきたいです。あかレンガのデーパートおみて。ちつと。やらしい。しるおかいました。マリインタわものぼりました。

さいきんおもっていること

萱場 由梨

花粉症になって三年ぐらいになりました。早く花粉症なおらないかなとおもいます

あとはかくていしんこくを初めてやりました。むずかしかったけどぜんぶおわってほつとしました。

わたしとさん・すまいる

水島 茂治

現在、ディーケアに週、三日かよっています。火曜、木曜、土曜の三日です。朝八時三十分から夕約七名でやっています。午前中、おふろにはいって、のこりはリハビリをやっています。

又午後から二時ごろからやっています。終了は四時三十分まで行なわれています。

又予談ですが、グループのなかで最高れいが九十九才のおばあちゃんちゃんです。車いす無での生活を行っております。

かんべきじゃないから

かんべきな人になる

これはいいけんひびきよく聞こえるがそうではない。かんべきな人なんてこの世に一人もない。かんべきじゃないから誰かをすごいと思えるし、おたがいにいい所を見出し成長出来るのだから。

失敗したって沢山まちがえていないんだ。そこから学び成長へとつながる。かんべきを求めする必要はない。いけないのはやる前からダメだとあきらめることや自分を変えてく事からにげる事。目標を決めゴールした、さあ、終わりだではみりよくを感じたりひきつけられたいはしない。

目標達成したからこそ新たなゴールがあらわれる。新たな自分やチャレンジにワクワクする事。世界はさ、姿を変えてるように見えた。でも、自分が穏やかで幸せにみちてるからこそ世界は美しくかかやく。

気持は言葉にすれば軽くなる。

言葉にしなければつたわらない。言葉に思いをのせて愛をうける。

必ず手を差し伸べてくれる人がいるから世界に優しい明かりを灯していけるのだから

超短時間就労を始めて

匿名

私は今そうじの仕事をしてますが、なかなか慣れません。慣れるように頑張ります。

最近のユーチューブ

10

森住 由香里

中居くんの事などいろいろありますが、私が見てかんどうしたのは、人は「あい(愛)」をさずかって生まれ人にをん(恩)をかえて死んで行くんだ」ってユーチューブでながれてきて、なるほどなあと感じました。

せんげん台すい「い」

W

一人一人リクエスト曲を決めて、当日ギターのSさんのえんそうで「ルビーの指環」を皆といっしょにうたいました。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会